

首里杜まちづくり推進協議会の活動

首里杜まちづくり推進協議会は、沖縄県が策定した「首里杜地区整備基本計画」の実現を目的として設立されました。構成員には地域団体、事業者、大学、行政などが参加しており、地域側の中核組織として首里杜地区まちづくり団体連絡協議会(地域事務局:NPO 法人首里まちづくり研究会(すいまち研))が位置付けられています。

すいまち研は、地域住民との連携や普及啓発・情報発信、ワークショップの企画・運営、地域活動の実践・人材育成などを担い、首里杜まちづくり推進協議会において、首里杜地区整備基本計画の推進や地域・行政・大学・企業の連携、ロードマップの進行管理、部会やテーマ別プロジェクトの運営のつなぎ役として活動しています。

首里杜まちづくり憲章は、首里城正殿の復元を契機として、地域住民・事業者・行政・教育機関が「これからの首里をどのようなまちにしていくなか」という共通の価値観と行動指針を示すために策定されたものです。その策定過程では、すいまち研が地域を代表する実践組織として中心的な役割を果たしました。

憲章策定までの経緯

1. 2019 年 10 月 首里城火災
 - 首里城正殿などが焼失し、復興とともに「首里全体の歴史まちづくり」の必要性が高まる
2. 新・首里杜構想の推進
 - 沖縄県は、首里城の復元だけでなく、周辺地域を含めた歴史文化まちづくりを進める「新・首里杜構想」を展開
3. 2021 年度 首里杜地区整備検討委員会
 - 地域団体からの提言や住民アンケートを基に議論が進められる
4. 2022 年 3 月 首里杜地区整備基本計画策定
 - 歴史・文化・景観・観光・交通・生活環境などを総合的に進める基本計画を策定
5. 2022 年 9 月 首里杜まちづくり推進協議会設立
 - 地域・行政・大学・事業者が協働する推進組織が設立され、基本計画を実践する体制が整い、地域事務局は「首里杜地区まちづくり団体連絡協議会」が担う
6. 2025 年 憲章づくり
 - ワークショップや部会活動を重ねながら、多様な立場の意見を反映して「首里杜まちづくり憲章」を取りまとめる

首里まちづくり研究会が果たした役割

① 地域の意見をまとめる中核組織: すいまち研は 2005 年の設立以来、首里地域で調査研究や景観保全、歴史文化の継承、住民参加型まちづくりを実践してきました。その経験を生かし、地域住民の意見を行政へつなぐ役割を担いました。

② 協議会の地域事務局機能: 首里杜まちづくり推進協議会では、「首里杜地区まちづくり団体連絡協議会」の中心メンバーとして、会議運営、住民説明会、ワークショップの企画・調整などを支えました。

③ 住民参加の仕組みづくり: 憲章を行政主導ではなく、「地域みんなでつくる約束」とするため、住民や学生、事業者、専門家など多様な主体が参加する対話の場を継続的に設けました。

④ 「行動する憲章」への提案: 憲章を理念だけで終わらせず、行動指針(ガイドライン)を今年度策定予定

首里杜まちづくり憲章(2026年3月版)

首里には、人々の暮らしがあります。
坂道を行き交う日々の営みの中で、
歴史や文化、祈りや思いやりは、静かに受け継がれてきました。
この地に湧く水は、人の暮らしを支え、
水場に生きる小さな命を育みながら、
首里の風景の一部として守られてきたものです。

私たちは、このまちで暮らす者として、
子どもから人生を重ねてきた人まで、
誰もが安心して暮らせることを大切にし、
先人の営みと今を生きる私たちの工夫を重ねながら、
このまちを未来へつないでいきたいと考えています。

首里を訪れる人々とも、互いに敬意を持ち、
暮らしや自然に配慮しながら、
首里の魅力を分かち合える関係を育んでいきたいと願います。
その思いを、ここに定めます。

記

未来に向かって、私たちは

- 一、暮らしの安心と安全を何よりも大切にします。
- 一、歴史と文化、そして首里の風景を大切にします。
- 一、水と水場、その周りに息づく生きものを大切にします。
- 一、穏やかな日常と、ほどよい賑わいの調和を目指します。

このまちづくり憲章は、今後も議論を重ね、継続的にみんなで育てていくものです。
2026年3月版として公表します。